



震生湖誕生100周年記念誌

秦野市教育委員会



昭和 55 年（1980）頃の震生湖

震生湖誕生 100 周年にあたって

大正 12 年 (1923) 9 月 1 日午前 11 時 58 分、相模湾北西部を震源とする推定マグニチュード 7.9 の地震が発生し、神奈川県では震度 6 (当時階級) が観測されました。関東地方南部を中心に大きな被害を受け、死者・行方不明者は 10 万 5 千人余にのぼり、本市においても 171 名が亡くなり、また、本町四ツ角周辺では火災により多くの建物が焼失するなどの被害がありました。100 年前の大災害から長い歳月が経過しましたが、犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、改めて自然災害の脅威と防災の備えの大切さを痛感するところです。



さて、本市と中井町にまたがる震生湖は、関東大震災により誕生した堰止湖で、地震による地形的変化と、地震の規模の大きさを今日に伝える貴重な地質遺産です。令和 3 年 (2021) 3 月 26 日に、その文化財的価値が認められ、国登録記念物に登録されました。誕生から 100 年にわたり、秦野の変化を見届けてきた震生湖は、時代と共に少しずつ姿を変え、現在では季節ごとに木々が彩り、花が咲き、野鳥や魚などが生息する自然豊かな観光地として、ハイカーや市民が集う憩いの場所として多くの人々に愛されています。

一方で、私たちには、過去の災害を忘れずに自然の猛威や災害の恐ろしさを学び、次世代に伝えていく責任があると考え、本市では、100 年の節目を迎えるに当たり、多くの方々に関東大震災の被災状況や震生湖の価値を改めて知っていただくため、これまで記念事業や取組を行ってまいりました。

「天災は忘れた頃にやってくる」で知られる、東京帝国大学地震研究所の物理学者で、俳人の寺田寅彦は、昭和 5 年 (1930) 9 月に震生湖の測量調査を行い、自然災害による被害を忘れることへの危険性を訴えています。地震をはじめ、様々な自然災害が身近になっている今日、関東大震災の記録や記憶、そして、震災遺構としての震生湖を教育活動や学びの場などで、次世代を担う子どもから大人まで幅広い世代が直接触れ、学ぶことで、災害の影響を実感し、更なる防災意識の向上につながるものと考えます。

最後になりますが、震生湖誕生 100 年を迎えるに当たり、地元の南地区をはじめ、震生湖に関わる団体、関係機関の皆様には、多大な御指導と御協力をいただきましたことに心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

引き続き「自然豊かでみんなに愛される震生湖」を後世に引き継ぐとともに、より持続可能な都市を築くため災害に強いまちづくりを目指して取り組んでまいりますので、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

秦野市長 高橋昌和